

＜第2回 活性化委員会の議事録＞

開催日時：2014年7月3日 18:00～19:30

開催場所：工業会 事務局

参加者：朝田武志、河合邦晃、橋本達也、林 秀昭、山崎 聡（株ハヤシ）、天宅 勲（株プラグイン）
安井賢治（敬称略・順不同）、中西（事務局）文責

議事内容：前回の議事録の確認をした後に進め方について検討した結果、具体的なHP等の内容よりも、今回も工業会のコンセプト、理念、目的などについて話し合うこととしました。

目的・目標として 『会員数の増強』 を目指すこととする。

- ・会員の減少の背景としては、①プレス業界の縮小、②魅力的なメニューがない、③懇親会・飲み会がメインになってしまっている

魅力のある工業会にするためにどうすべきか

工業会へ入会するメリットを考える（自由意見）

- ・補助金、助成金が企業に対してはあるが、業界団体に対してはなくなった。
- ・情報を発信する（工業会から受け取れる）メリットはある（補助金などの情報）
- ・工業会から情報を発信してもなかなか反応がない（情報が埋もれてしまう）
→受け手にも問題があるが、発信の仕方にも問題があるのでは
スマートな情報発信ではなく、もっと泥臭い具体例などを出せば良いのでは
工業会には何も望んでないので、受け手側も情報に対する意識がないのでは
- ・工業会活性化のツールとしてHP、工場見学会などを組み込んでいく必要がある
- ・工業会に参加が少ないのは、世代交代とともにサロンになってしまっている
→つまりは魅力的な行事がないからである
- ・プレスだけの企業が少なくなってきたので、プレスに限らず素形材の業界に広げて行くべきではないか、（素形材センターの中の大阪金属プレス工業会というイメージ）
- ・工場見学が出来ていないので、会員間の仕事の紹介（コーディネート）がない。
- ・展示会、販売促進の場を工業会が（安く）提供できれば魅力的なのではないか
- ・イプロスやNCネットワークなどの情報サイトを参考にすればよいのでは
- ・総会や賀詞交歓会以外で魅力的な行事がない、委員会組織が機能していない
日金協のセミナーに頼るのではなく大阪独自で行事ができないか
賀詞交歓会は挨拶と飲み会だけ、講演会は魅力的なものではない、もっと魅力的な行事をすべき、各委員会をもっと真剣に1か月ごとに集まって話すくらいでないとダメ
- ・大阪市産業経営協会（市産経）は1年かけて幹部候補生を教育するメニューがある。
教育メニューは参考にして見習うべき。工業会が団体会員になれないのか。
- ・工業会に入れば、同時に他の業界団体に所属できるというメリットがあればよいのでは
- ・人材関連ではポリテクセンターと取り組む研究会は大いに利用できるのではないか
→ポリテクからの人材を採用できるのは大いにメリットになるのでは

（まとめ）

まずは会員に対しての意識改革をすべきである。

委員会に対して積極的に活動していくことを呼びかけましょう。

委員会のメンバー（正副委員長など）と青年部や青年部OBを集めて決起集会をしましょう。

方向性としては

各委員会の中で小委員会をつくり、何をすべきかを具体化し、リーダー及び実務担当者を（委員会外からでもよいので）決めて作業に取り組んでいきましょう。

委員会組織図（見直し）と作業内容の素案（スケジュール含む）を作ります。（林リーダー）

決起集会にて素案の実務作業をだれが担当するかを決めましょう。

（やりたい人が立候補しても構わない、違う委員会の作業を担当しても構わない）

決起集会は

日 時 : 8月4日（月）18時から20時までとします。

場 所 : たかつガーデンを予約します。

※終了後は懇親会をしましょう

召集対象 : 正副委員長、青年部、青年部OBを中心に
30名くらいは集めたい！

以 上